

第 10 回うきは市ルネッサンス戦略推進協議会 議事要旨

日時：令和元年 7 月 30 日（火）14 時～16 時

会場：るり色ふるさと館

出席：会長 狩野啓子 久留米大学文学部 特任教授

委員 柳島一清 九州経済産業局地域経済部地域経済課 地方創生担当参事官

志野久美子 九州厚生局健康福祉部 医事課長

原口芳樹 九州地方整備局企画部 企画課長補佐（代理出席）

足立 整 九州農政局福岡県拠点 地方参事官

野口綾子 福岡県企画・地域振興部市町村支援課 企画主幹

野中香織 日本政策投資銀行九州支店業務課 副調査役（代理出席）

平塚敦章 筑邦銀行吉井支店 支店長

内村光宏 福岡銀行吉井支店 支店長

清川哲弘 西日本シティ銀行吉井支店 支店長

糸山 信 西日本新聞社 浮羽支局長

田村吉彦 うきは市社会福祉協議会 事務局長兼在宅福祉課長

石井信一 にじ農業協同組合 営農経済担当常務

平川光臣 浮羽森林組合 代表理事組合長

古賀公彦 うきは観光みらいづくり公社 代表理事

関 健児 うきは市勤労者協議会 会長

杉 俊明 御幸地区自治協議会 事務局長

處 愛美 うきは市教育委員会 委員

生野京子 浮羽中学校 PTA 副会長

高木亜希子 九州元気計画経験者

藤川由美 うきは市子育て計画委員経験者

高橋和子 白壁レディース 21 代表

樋口幸代 うきは翼の会 代表

副会長 今村一朗 うきは市 副市長

欠席 平位秀敏 うきは市商工会 事務局長

大塚貴久子 浮羽青年会議所 監事経験者

1- 開会（事務局）

2- あいさつ（会長）

3- 協議事項

(1)平成 30 年度地方創生交付金採択事業報告

（事務局説明後、質疑）

【委員】鑑田屋敷のお風呂が使えないという話が
まことしやかに聞こえてくるが本当か。きちん
とした情報発信をしてほしい。

【事務局】お風呂は整備しており問題なく使える。
合宿等で疲れた時にリフレッシュして頂いたり、
イベント等において活用していただきたい。今
後、気を付けて広報していきたい。

【委員】サテライトオフィスについて、和室で仕
事をするのは実際どうなのか。使用を想定した

課題についてどのように解決しようと考えているのか。

【事務局】和室では机やマットを使用して快適に仕事ができるよう配慮している。昨年数回にわたり東京勤務の方々に来て頂き、市の歴史や自然に好評頂いたが、課題としては実際にオフィスを構えるとなるとまだまだ難しいといった反応である。観光と仕事を絡めたワーケーション等であれば今後も関わりができると言われていいる。そういった意見を踏まえて取り組みを続けていきたい。

【委員】ワーケーションという言葉があったように継続して仕事というのは難しいのかなと感じる。ネット環境が整っていることを売りにしていろんな発信をして使える場所なんだということを知れば活用の場が広がると思う。鏡田屋敷の奥のキッチンを見せてもらったが、せっかく作ったものなのでうまく活用方法を考えてほしい。

【副会長】和室での仕事については逆に大変喜ばれている。毎日コンクリートに囲まれて長時間仕事をしている都会の方にとって、古い文化的建築物の中で自然の光や空気を感じながら横になって仕事をする環境は大変気持ちが良いようだ。そういった環境は新しい発想や考えを見出しやすく、快適に仕事ができると好評を頂いている。

【委員】人材育成事業の決算額を見て教育にかかる費用がかなり低いと感じる。例えば農的水循環環境調査の地下水調査などは、市外者から見ればブランド的な価値があるだろうが、その肉付け資料となるパンフレットはあまり市民には刺さっておらず、そこまでお金をかけることなのか疑問である。また、農業の担い手育成事業は700万円代しか投入されていないが、もっと担い手や若手の後継者育成に重きを置くべきではないか。そういう意味では6次産業化支援センターについては良い取組だとは思いますが、な

ぜあの場所に設置したのか、納得できる理由を聞きたい。JAにじの耳納の里や道の駅うきはに近接している方が出荷者にとってはありがたいのではないかと。

【事務局】農業関係予算が少ないという点について、今回はあくまで地方創生推進交付金を活用した事業のみを紹介しているが、他にも各種交付金や補助金を活用しながら多方面で投資を行い農業振興に努めていることはご理解いただきたい。

水循環環境調査は、生活用水を全て地下水で賄っているにも関わらず、地下水の量や水質について本格的な調査を行ったことがなかったため、3年かけて調査を行い、その結果をわかりやすくまとめたのがこのパンフレットである。今後はこの資料をもとに学校を回るなどして水について学んでもらい、より多くの市民に知って頂けるよう努めていきたい。

予算配分については、地下水調査やテロワールプロモーション事業など事業費が多いわりには浸透していないということだが、過去のグリーンツーリズムの取組も7~8年かかっている。市長の想いとしては、いろんな地域資源があることを一つ一つ理解してもらい、それがうきは市の自信や誇りになって後継者を育てるという大きな目標がある。その大きな柱である「水」は、海外や東京からの興味・関心が非常に高い。うきは市に住んで良かったと思って頂けるのが最大の目標であるので、今後もうきはテロワールを推進し、皆様に理解して頂けるよう更に進化させていきたい。

【委員】地下水調査について質問ではなく意見だが、日本全国790市のうちに789市は上水道事業をやっているうきは市だけやっていないと聞いている。市はこれを絶対に売りにするべきだと思う。

【会長】全く同感である。良い水であると言えれば、これだけ力強いアピールになるものはない。水が良いからオフィスを構えるといった企業も

あるとさえ思える。

【委員】6次産業化支援センターを整備した用地はエフコープに貸したのか売ったのか。結局市の土地に建てたのか、エフコープの土地に建てたのか。

【事務局】場所については当初、JAにじの耳納の里周辺を検討していたが、最終的な建設地は市の中心的な場所にあることと、エフコープと包括連携協定を結ぶ中で、あの場所を物流の拠点として活用したいという意向があったことから千足保育所跡地に決定した。敷地はエフコープに売却した土地ではあるが、施設部分についてのみ賃借することとなった。

【委員】そもそもエフコープに売る際にあの場所に建てるという意向が既にあったのではないのか。JAにじの耳納の里周辺や御幸小学校横の跡地とも聞いていたが二転三転して決まり、計画性がないように感じる。

【事務局】千足保育所の跡地を売却したのは平成28年4月頃であったと思う。当時は全く6次化センター建設の計画はなく、あくまでの保育所跡地を民間に有効活用して頂くために売却した。その後、様々な検討をする中でこの場所が適当であると判断し、一度売却した土地ではあるが、施設部分のみ格安で借りるといような形となった。

【委員】うきはファンクラブの資料に英語版はあるのか。外国のお客さんと接する中でうきはが好きな外国人のために英語版のカードを作ればSNS等で広めてくれるのではないか。

また、森林・温泉連携による健康産業創出事業について、筑後川温泉と吉井温泉の入り口の環境整備を行うことが重要ではないか。それぞれ旅館や個人でやるのは大変なので行政の支援が必要と感じる。

【事務局】ファンクラブの資料は日本国内をター

ゲットにしているため英語版は作っていない。検討させて頂きたい。

森林・温泉連携による健康産業創出事業は、各温泉旅館との定例会を毎月開催して連携を図っている。今後も引き続き協議を続けていきたい。

【会長】6次産業化支援センターには使い方の指導者や研究を進める専門家などは常駐しているのか。

【事務局】施設は指定管理者制度によって株式会社イーストに3年間管理頂く。専門的なアドバイザーは常駐していないが、研修など必要に応じて招待することは想定している。常駐という意味ではあくまで機械の使用方法について指導者がいるところまでである。

【会長】別の地域ではもっと高額な機械を入れたが利用者が途絶えてしまい、最後は錆だらけになってしまった施設を見たことがある。よく使われることが重要だが、利用予約は入ってきているか。

【事務局】7月1日にオープンし、現時点で予約は30件入っている。うち視察・見学が11件、実際に加工など活用したいというのが19件となっている。出だしとしては、多くの方に活用頂いていると感じている。

【会長】こういった施設はどんどん活用して頂いて、メンテナンスも大変だと思うが管理もしっかりして頂きたい。

(2) KPI 検証
(事務局説明後、質疑)

【委員】「うきは市へのIターン者を、現状の年間30人から2019年には50人に増加させる」KPIについて、朝倉からの被災者は含まれているか。都市部だとどこから転入してきているのか。

【事務局】Iターン者の定義は本来、出身地と別

の場所に移り住むことを指すが、ここでは県内からの転入やお隣の日田市からの転入、結婚を機に転入された方、外国人、1年以内に転出した方を除いた。転入で一番多かったのが熊本県で12名、大分県が11名、佐賀県が9名、東京・神奈川が6名ずつとなっている。九州に次いで関東からの転入が多い。またIターン者のうち、43%が30代。前年度は35%、前々年度が28%で30代の転入の割合が増えてきている。

【会長】集計から除いた人がたくさんいるため除かなければもっと数字は増えるということだろう。うきはファンクラブの会員が転入してきたことはあるか。ファンになって移住してくるということも多くあり得そうだと感じる。

【事務局】うきはファンクラブ加入者の市内への転入について、データの的にはまだ取れていない。

【委員】ジョブマッチング空き家対策プロジェクトについて、実際に市内に空き家が多く見受けられ、倒壊寸前のももある。空き家対策の現状と進捗状況を教えてほしい。また、自治会に加入するのに十数万円払わないといけないところがある。持ち家だと区への加入費が負担となっていると感じる。市で何か対策などはあるか。

【事務局】地方創生の交付金は使っていないが、空き家バンク運営、空き家のリフォーム補助金、空き家バンクに登録する際に家財道具の処分費を補助する空き家バンク活用促進事業などを展開している。空き家バンクの登録は年間10件ほどで現場の調査や査定を年20件ほどやっている。空き家バンク、リフォーム事業を移住者が活用している割合も高い。不動産情報に載らないような物件についても情報をストックしておくことで民民での貸し借りに繋がる手助けができる。しかし流通に乗らないような物件や未相続の物件は多く、相談から活用までに時間がかかったり難しかったりするところが悩ましい。活用しにくい物件は住環境建設課で除却や宅地に戻す取り組みなども行っている。活用と除却

について相互に連絡をとりながら事業を進めて、年に2回、空き家相談会を実施している。平成25年から始めた空き家バンクも浸透してきて月に5~6件査定を行っている状況。今後まとまった数の情報を掲載できる見込みである。

商工振興係でも空き店舗等活用支援事業補助金を昨年度から活用している。市内の空き家・空き店舗を活用してビジネスを始めたいという方が対象で、予算額は昨年同様500万円。一人当たり上限100万円である。昨年同様、今年度分も全て使い切りそうな見込みである。創業支援を行っている中で空き家を活用したいという声は多い。空き家は上下水道の接続など水回りの整備だけで何十万円とかかかるので、資金が不足しているような若い世代では当該補助金を利用される方も多い。

自治会への加入金については、各行政区で様々で、例えば以前から住んでいる方々で公民館を建て、その負担金として徴収しているようだ。加入金の設定金額や区への未加入問題について自治協と相談を続けている状況である。

【委員】加入金について区長の立場からなぜ加入金があるかということ、公民館の負担金もあるだろうが、昔から積み立ててきたお金が例えば百万円くらいあったとして、それを戸数割りで割ったものを加入金額としているところが多いのではないか。自分の区では年3回に分けて払ってもらおうよう取り決めている。修繕などのためにお金をとっておかなくてはいけないので加入金を支払ってもらっている。

【委員】地域では運営費の関係で揉めることも多い。思うに店舗でも老舗と新しい店とのいざこざが生まれるから、双方を大事にして見守ることが必要。昔から住んでる人と新しく入ってきた人が上手にコミュニケーションをとり亀裂が入らないようにするにはどうしたら良いのか考えさせられる。

【事務局】地域によっていろんな事情があり、それぞれ取り扱いが違うのが現実である。ただし、

行政として危惧しているのはそういった事情が要因となり、うきは市に住もうと思った若い方が久留米市に移るというケースが発生しないかということである。もしそういうことがあれば、皆様と協議して一番良い解決策を探していきたい。

(3) 人口ビジョンと RESAS 検証 (事務局説明)

【会長】 様々な対策をとっているようだが、なかなか人口は増えないといった印象である。質問がないようなので、報告ということで切り上げさせて頂き、次に進める。

(4) その他（国の動向と今後のスケジュール） (事務局説明後、質疑)

【委員】 今日の話の中でファンクラブの会員が増えているということが一番頼もしく感じた。物産振興や交流人口を増やすためには、リピート率が上がるのが重要。そのためにはファンの獲得が必須であり、うきは市の取り組みに大変期待している。

【委員】 地域と密着し連携していくという共通の目標を持つ中で大変興味深く参考になった。

【委員】 ルネッサンス戦略の中に JR の新駅整備の話が出ており、JR 九州と自治体の連携事業になると思うが、国交省に概略設計や需要予測などを補助する官民連携社会基盤整備推進調査費というものがあるのでご紹介しておきたい。

【委員】 農林業についてどういった取り組みをされているか興味深く拝聴した。委員の方から農業関係の予算が少ないという話があり、事務局からその他いろんな国の事業等を活用しているという話があったが、まさしく国にも一昔前と比べて使い勝手の良い予算体制が整ってきていると思う。ぜひ農林水産業の予算を活用してほしい。

【委員】 関係人口に大変関心を持っている。国の方でも今後関係人口に力を入れていくと思う。関係人口が即、移住には結びつかないかもしれないが、こういったファンクラブなどの取り組みを積み上げていくのが大切である。移住定住ではうきは市はとても人気のある市である。昨年、大学生を地方に連れて行く「ふるさとワーキングホリデー」という事業の中で、都会の学生は農業に大変興味を持っており農業の人气が高かった。農業体験を売りにすることもファンクラブ会員を増やす一つの手法になり得るのではないか。

【委員】 今年の4月に着任したが以前は県外に住んでいて、そのときにファンクラブに入らせて頂いた。東京のアンテナショップにもオープンから何度も足を運んだ。時々お客さんの多い日があり、店員さんに理由を聞くと、うきはの物産展が開催されているときで、情報が会員へダイレクトメールされているからということだった。残念ながらアンテナショップは閉店となるが、関東圏にもファンを増やしているので今後も情報発信を続けてファンをつなぎ止めてほしい。

【委員】 いろんな企業や地域の情報等を上手く連携できればと考えている。今日勉強になったのは、うきはの「水」について、こういったパンフレット作成などの「見える化」を行ってメディア等を上手く活用して情報を外へ発信し、注目されるような取り組みをどんどんやってほしい。

【委員】 テレビ番組を土曜日の朝の9時25分から5分間放映しているが、つい先日もうきは市を紹介しPRさせて頂いた。今後も情報発信基地として協力できるよう対応していきたい。

【委員】 うきはファンクラブが既に約700人もいることに驚いた。一方で、市のホームページの観光情報が最近更新されていないようだ。ぶど

う狩りや梨狩りが始まって、今が一番お客さんがインターネットで調べようとしている時期なのに最新の情報が更新されていない状況が見受けられるので、そういったところも目配せして頂きたい。

また、若年層の人口の減り方については新しい計画を策定する際の大きな課題になると思う。久留米市への流出が多いということだが、今度の資生堂の工場建設で、千人ほどの雇用が生まれると聞いており人口問題に対する大きな手段になると思う。次の計画ではいかに若い人たちに残ってもらい外から来てもらえるかを計画にうまく盛り込んでもらいたい。

【委員】ルネッサンス戦略とは直接的に関係はないが、これだけの戦略をこなす市職員はものすごく頑張っていると思う。そこでお聞きしたいのは、市では職員に対しどのようなメンタルヘルスを行っているのか。体制作りにもっと力をいれてほしい。

【会長】2時間で終わる予定だったが終わらず、それほどたくさんの取り組みをされており、市役所の職員もさぞ大変だろうと感じた。市民も市役所も明るく一緒に地方創生を進めていけたらと願っている。

(5) 閉会

【副会長】今日頂いた貴重なご意見を戦略の中で活かしていきたいと思う。地方創生の事業は東京一極集中を是正し、地方からの人口の流出を防ぎ地方に元気を与えていこうという取り組みだが、未だに東京は昨年13万人増となっており、東京圏だけで3千万人、日本の3分の1の人口となっている。各地方は人口を増やすため取り組みを行っているが、単に人口を増やすのではなく、魅力あるような人材や都市づくりなど、うきは市に来たら楽しそうだと思ってもらえるまちづくりをしたいと思っている。

職員のメンタルヘルスについては仕事を進める上で大変重要であると認識している。市の衛生委員会で職員の健康管理に努めている。いろいろ

んな課題については市の課題として今後も十分共有しながら改善していきたい。そういったことも踏まえて地方創生をしっかりと進めていこうと考えている。今後も率直な意見を頂きますようご協力をお願いしたい。